

日本倫理・哲学グランプリ 2018

【課題】

次の4つの課題文のうちから1つを選択し、後の「哲学エッセイを書くにあたって」を参考にしつつ、エッセイを書きなさい。

- ① 歴史家は実際に起こったことを語るが、詩人は起こりうるようなことを語る。それゆえ、詩作（ポイエーシス）は、歴史（ヒストリアー）よりもいっそう哲学的であり、いっそう重大な意義をもつものである。というのも、詩作はむしろ普遍的な事柄を語り、歴史は個別的な事柄を語るからである。

アリストテレス

- ② 戒律は、我々に様々な善行を教え、規定するが、それによって善行は生じない。（中略）人が何をなすべきかを教えるが、それを実行する何らの力も与えない。だから戒律があるのは、人間がそれによって善に対して無力なことを知り、自分自身に絶望することを学ぶためなのである。

マルティン・ルター

- ③ 哲学においても他の場合でも、問題を解決することよりも、問題を見いだすこと、したがって問題を提起することの方が肝心である。

アンリ・ベルクソン

- ④ 最も特殊なるものが最も普遍的な意義価値を有するということは、何も芸術の作品に限ったことではない。

和辻哲郎

哲学エッセイを書くにあたって

哲学エッセイは、学校でよく課題に出るいわゆる「生活作文」（生活の中で体験したことについて自分が感じたこと、考えたことを書くもの）ではありません。そうではなく、ある問題やテーマに関して、自分なりに問いを立て、様々な角度から考察し、筋道立てて書くものです。評価のさいには以下のような点が重視されます。

- ・ 選んだ課題文に含まれるテーマや問題とどれくらい向き合っているか。
- ・ そのテーマや問題についてどれくらい深く考え、理解しているか。
- ・ 自ら問いを設定し、それに答えるべく論じ、結論を出しているか。
- ・ 主張や意見を述べるさい、なぜそう言えるのか、明確な理由を挙げているか。
- ・ 具体的で分かりやすく、説得力のある首尾一貫した論述になっているか。
- ・ 反対の立場も検討しつつ、自分の立場をはっきりさせて論じているか。
- ・ 自分なりの論点や考えを含んだ個性的なエッセイになっているか。

こんなことを言われても、実際にはどうすればいいのか分からないかもしれませんし、これらのポイントをすべて満たすなんて無理でしょう。でも、書きながら迷い、悩んでください。それでもチャレンジするのが大事です。

* 「倫理哲学グランプリ」の HP の「実績」をクリックすると、過去のメダリストのエッセイが読めます（青字で下線が引いてある人）。書く際に参考にしてください（<https://jpe-gp.org/result/>）。